「堺戎（えべっさん）」と呼ばれている菅原神社

大／阪／の／建／築／まちあるき――「堺」

菅原神社（堺天神）

堺の鉄砲鍛冶、榎並屋勘左衛門の寄進によって造営された大阪府文化財「楼門」

本殿と拝殿、第２次世界大戦で焼失した後に造営されている

堺の武将小西行長が三韓より持ち帰り奉納したといわれる傘松の大木の幹

「楼門」から本殿と拝殿をながめている

所在地： 堺市堺区戎之町東 2-1-38
最寄駅： 阪堺線「花田口駅」下車
入場料： 無料

建築概要

▶菅原神社　楼門（昭和 45 年 2 月 20 日大阪府指定有形文化財、昭和 51 年解体修理）
・柱間が三間、出入口が一ヶ所の三間一戸
・屋根は入母屋造・本瓦葺
（一棟・三間一戸楼門　入母屋造　本瓦葺）

菅原神社は、南海本線の堺駅と南海高野線の堺東駅の中間に鎮座する。周りは飲食店が多い。祭神は、菅原道真・天穂日命（あめのほひのみこと）・野見宿祢（のみのすくね）の三座である。縁起によれば、延喜年間（901～922）堺の海岸に、菅原道真自作の木像が漂着した。これを民家のかたわらに祭っていたが、後に常楽寺（菅原神社）の僧が同寺に移し、社殿を造営し、長徳3年（997）神殿に祭ったのが、当社のおこりである。天文元年（1532）の火災をはじめ、大阪夏の陣（1615）の戦火などを蒙ったが、承応2年（1653）には、本殿・拝殿が再建された。しかし、昭和20年の戦災によって、わずかに現在、大阪府の有形文化財に指定されている楼門を残して全焼した。戦後は、もと戎島にあった恵美須神社もここに移され、1月9日～11日には戎祭、9月13日～15日には例祭が行われている。旧市域北荘（大小路以北）と戎島が氏地で、市民からは「天神さん」と呼ばれている。堺戎（えべっさん）としても有名です。鉄砲鍛冶・榎並屋勘左衛門の寄進により、延宝5年（1677）に建てられたと伝えられる楼門（ろうもん）がある。楼門とは二階建の門で、上層に手すり付の縁が廻らされている門のことをいう。東大門、南大門があり、東側と南側からは大寺院の様相を示す。この楼門は正門の柱間が三間、出入口が一ヶ所の三間一戸（さんげんいっこ）の楼門で、屋根は入母屋造・本瓦葺である。この建物の特徴のひとつは軒を支える複雑な組物に、彫物をほどこした絵様肘木（えようひじき）を用い簡略化していることである。特に上層では、大斗と絵様肘木の上に尾垂木（おたるき）付きの絵様実肘木（さねひじき）を重ね、伝統的な二手先（にてさき）組物に似た構成としている。これらは近世建築の様々な表現方法のひとつと考えられ、建築史上の意匠変化を知る上で重要である。このような特色ある手法や様式などから、建立年代は17世紀後期にさかのぼるとみられる。大坂府下での数少ない楼門建築として貴重である。　（七堂元敏）